



# 最優秀選手賞は中澤佑二、 新人王は森本貴幸が 最年少受賞

Jリーグは12月13日、横浜アリーナで「2004Jリーグアウォーズ」を開催した。川淵三郎日本サッカー協会キャプテンをはじめ、オフィシャルスポンサー、メディア関係者、そして毎年恒例の5000人のサポーターを招いて、今シーズン活躍した選手、監督、審判員などの功績をたたえた。



最優秀選手賞 (MVP)

中澤佑二 (横浜FM)

正直、めっちゃめっちゃうれしいです。開幕前から苦しい試合が続き、最後のサントリーチャンピオンシップもPK戦までもつれ込む苦しいシーズンだった。毎日のコンディション管理、集中した練習、試合でベストを尽くす。この3つをモットーに今後も努力していきたい

和太鼓とオーケストラのコラボレーションによる、華々しいオープニングで2004Jリーグアウォーズは幕を開けた。栄光の舞台上では、今年最も活躍した選手たちが次々と表彰され、大きな歓声が沸いた。

2004年の最優秀選手賞(MVP)に輝いたのは、横浜F・マリノスの中澤佑二。サントリーチャンピオンシップでは、浦和レッズの爆発的な攻撃力を見事に封印し、チームの連覇に貢献、同大会のMVPにも選出された。観戦した川淵三郎日本サッカー協会キャプテンは「日本代表の守備が健在であることを証明した」と中澤に称賛の言葉を贈った。同選手には、賞金200万円と副賞として日本ゼネラルモーターズ(株)からオペル・アストラ 2.0 Turbo Sportが、(株)デサントからゴールデンボールトロフィーが贈られた。

ベストイレブンには、ヤマザキナビスコカップ決勝で、延長戦、PK戦の末、素晴らしい好セーブで栄冠をもたらしたGK土肥洋一(FC東京)に始まり、DFでは田中マルクス闘莉王(浦和)、ドウトラ(横浜FM)、中澤佑二(横浜FM)、MFに小笠原満男(鹿島アントラーズ)、長谷部誠(浦和)、奥大介(横浜FM)、遠藤保仁(ガンバ大阪)、FWにエメルソン(浦和)、マルケス(名古屋グランパスエイト)、大黒将志(G大阪)の各選手が選出された。

新人王には、16歳で史上最年少受賞となった森本貴幸(東京ヴェルディ1969)。得点王は、浦和の攻撃の柱となり27得点を記録したエメルソンが受賞した。

フェアプレイ賞高円宮杯は今年も該当するチームなし。フェアプレイ個人賞は、GK高木義成(東京V)、GK下田崇(サンフレ

チェ広島)の2選手に贈られた。

最優秀監督賞には、2年連続Jリーグ制覇を成し遂げた横浜FMの岡田武史監督が受賞。日本ロレックス(株)のマクドナルドご夫妻より、副賞の時計が贈られた。優秀主審賞には吉田寿光氏が、優秀副審賞には柴田正利氏が輝いた。

J1ベストピッチ賞には、日本平スタジアムが、またJoin賞は、1年間を通してスタジアムを真っ赤に染めた浦和、そして年間最多観客動員数を誇ったアルビレックス新潟に贈られた。さらに、J2で優勝した川崎フロンターレも紹介され、関塚隆監督、鬼木達キャプテン、今野章副キャプテンが登壇した。



ベストイレブン (カッコ内は受賞回数)

(後列左から)土肥洋一(初)、田中マルクス闘莉王(初)、ドウトラ(2)、中澤佑二(2)、  
小笠原満男(4)、長谷部誠(初)、  
(前列左から)奥大介(3)、遠藤保仁(初)、  
エメルソン(3)、マルケス(初)、  
大黒将志(初)



得点王

エメルソン (浦和)

特に監督のサポートに感謝したい。ヤマザキナビスコカップ、サントリーチャンピオンシップともに延長、PKまでいってタイトルを取らなかった悔しさをバネに来年は必ず優勝したい



新人王

森本貴幸 (東京V)

今年はたくさんの経験をし、一瞬一瞬が勉強の毎日だった。ここまで育ててくださったチーム関係者、下部組織のコーチ、家族に感謝したい。まだまだやらなくてはいけないことがたくさんある

|                  |                                                 |
|------------------|-------------------------------------------------|
| 最優秀選手賞 (MVP)     | 中澤佑二 (横浜FM)                                     |
|                  | (GK) 土肥洋一 (F東京)                                 |
| ベストイレブン          | (DF) 田中マルクス闘莉王 (浦和)、ドウトラ (横浜FM)、中澤佑二 (横浜FM)     |
|                  | (MF) 小笠原満男 (鹿島)、長谷部誠 (浦和)、奥大介 (横浜FM)、遠藤保仁 (G大阪) |
|                  | (FW) エメルソン (浦和)、マルケス (名古屋)、大黒将志 (G大阪)           |
| 得点王              | エメルソン (浦和) ◎27得点 / 26試合                         |
| 新人王              | 森本貴幸 (東京V)                                      |
| フェアプレイ賞 高円宮杯     | 該当なし                                            |
| フェアプレイ個人賞        | 高木義成 (東京V)、下田崇 (広島)                             |
| 最優秀監督賞           | 岡田武史 (横浜FM)                                     |
| 優秀主審賞            | 吉田寿光                                            |
| 優秀副審賞            | 柴田正利                                            |
| J1ベストピッチ賞        | 日本平スタジアム (2004J1リーグ戦13試合開催)                     |
| Join賞 (チャーマン特別賞) | 浦和レッズ、アルビレックス新潟                                 |



最優秀監督賞  
岡田武史 (横浜 FM)

最高のチームを相手に、最高の舞台でサントリーチャンピオンシップを戦えた。浦和レッズのサポーターも含めて、皆があこのスタジアムの雰囲気を作ってくれたからこそ、あの感動があった。マリノスを囲む皆が夢を見てくれたからこそこの優勝だった



フェアプレイ個人賞  
高木義成 (東京 V)

今まで精いっぱいピッチの上で頑張ってきたことをこのような形で評価されたことを大変うれしく思う。これからもサッカーを愛するものとして、常にサッカーにフェアな姿勢で臨みたい



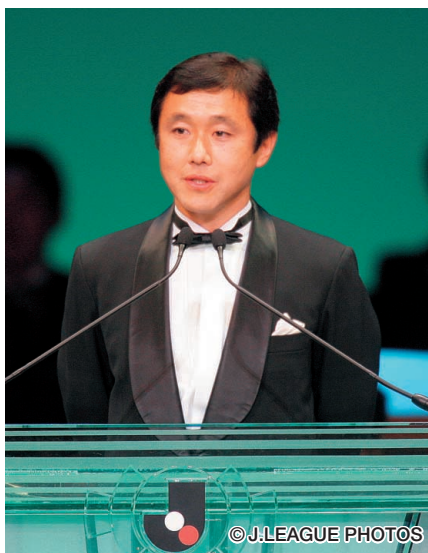
フェアプレイ個人賞  
下田崇 (広島)

今まで10年間、この表彰式を見てうらやましいと思ってきた。11年目にして受賞できてよかった。これからも個人としてはもちろん、チームとしてもフェアプレイ賞をもらえるようにしっかり頑張っていきたい



優秀主審賞  
吉田寿光 (国際主審)

日ごろは普通の中年的おじさんの私でもゲームをコントロールできるということを見せたくて、ピッチを走り回っている。今後さらに質の高いレフェリングを目指したい



優秀副審賞  
柴田正利 (国際副審)

福岡の高校で数学を教えているが、数学の世界のノーベル賞にあたるフィールズ賞を受賞したように、感激している



## アルビレックス新潟が 「がんばろう!新潟」ロゴマーク 掲出

アルビレックス新潟は、新潟県中越地震の復興活動が進む新潟県内で、「がんばろう!新潟」を合言葉に復興活動を支援している。11月6日(土)の2ndステージ第12節ガンバ大阪戦(万博)からは、ユニフォームの右袖に「がんばろう!新潟」のロゴマーク掲出を始めた。

1995年の阪神大震災発生の際には、ヴィッセル神戸が「がんばろう!神戸」のロゴマークをユニフォームに掲出して復興活動を支援した実績がある。

## 2005年シーズン リーグカップ戦 公式試合球変更

Jリーグは、2005年リーグカップ戦において、Jリーグオフィシャルサプライヤー株式会社モルテン(民秋史也代表取締役社長)の提供を受け、公式試合球としてアディダス社の「ペリアス(PELIAS)」を使用する。「ペリアス」は、2004年アテネ五輪公式試合球のデザインをベースにした新しい配色となっており、リーグ戦の公式試合球「ロテイロ」同様、モルテンとアディダス社が長年にわたり研究を重ねてきた“サーマルボンディング(熱接合)技術”を使用。俊敏で繊細なボールタッチ、狙い通りの軌跡、最低限の吸水性、最大限耐摩耗性を実現する。

また、きめ細かいボールコントロールと優れた反発性を実現する表皮に加え、高度に弾力性のあるフォームを使用、キックの場所に関係なく最高のバランスと最大限のエネルギーリターンが得られる。

なお、2005年リーグ戦については、引き続き「ロテイロ」を使用する。



© J.LEAGUE PHOTOS

# がんばろう!新潟

## 「障害者サッカークリニック」を 後援

Jリーグは、駒沢オリンピック公園総合運動場が主催する「障害者サッカークリニック」を後援する。

天然芝の環境を生かし、障害者サッカーの普及を目指すとともに、現役Jリーガー及び引退選手のセカンドキャリア教育、活用を提供することを目的に1月15日、駒沢オリンピック公園総合運動場で開催される。20歳以下の知的障害者50名が参加する。Jリーグキャリアサポートセンターの協力により、JリーグOB選手が中心となり指導に当たる。

## 入れ替え戦で インターネット中継を実施

Jリーグは、12月4日(土)および12日(日)に開催された「2004J1・J2入れ替え戦」で、Jリ

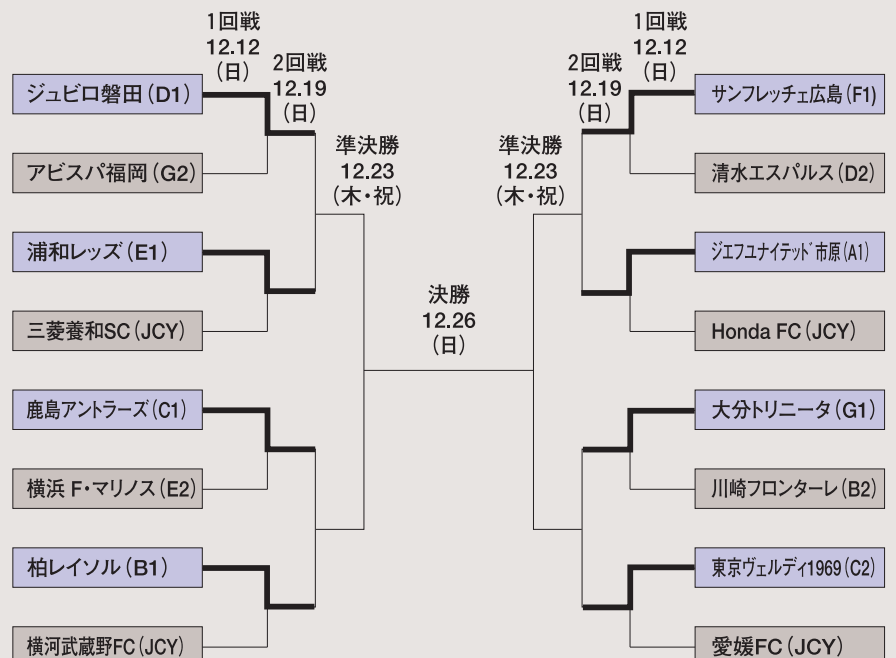
ーグ公式戦で初となるインターネット中継ライブ配信を実施した。より多くのサポーターの方々にさまざまな環境で注目の熱戦を楽しんでいただくことが目的。中継ライブ配信は、Jリーグ映像株式会社により行われた。

## 2004 Jユースカップ 決勝トーナメント

第12回Jユースカップ2004 Jリーグユース選手権大会の決勝トーナメントが12月11日から始まった。8月22日～11月21日まで開催された予選リーグで、12クラブのJリーグユースチームが決勝進出。これに、地域予選を勝ち抜いてきた、日本クラブユースサッカー連盟加盟4クラブを加えた16クラブによる決勝トーナメントとなる。

決勝は、12月26日(日)、長居スタジアムで開催。

### ■ 第12回Jユースカップ2004 Jリーグユース選手権大会 決勝トーナメント組み合わせ



※2004年12月12日時点

## 担当記者座談会

## 今年のAmazingそして来シーズンへの期待

## ● 2004年シーズンのAmazing

**司会**：今年のJリーグキャッチコピー“Amazing, J!”にちなんで、2004年JリーグのAmazing(驚き)は。

**中居英一**：何と言っても、浦和レッズの優勝に至るまでの盛り上がりですね。優勝の時の騒ぎはすごかったらしいですね。今後もさらに盛り上がると思います。

**平澤大輔**：僕は、FC東京ですね。ヤマザキナビスコカップは、決勝まで苦しんで、さらに決勝も苦しんだ後にタイトルを取った。浦和の優勝もそうですが、いままでとちがうクラブがタイトルを取るということにすごく大きな意味があ



中小路 徹  
(朝日新聞 スポーツ部)

る。クラブそのものがどんどん大きくなっていくことが期待できるので、うれしかったですね。

**福永稔彦**：森本貴幸(東京ヴェルディ1969)はAmazingでしたね。16歳ですがまったく物おじしてなくて、ジュビロ磐田の山西尊裕やジェフユナイテッド市原の茶野隆行らトップクラスのディフェンダーを相手に一対一で全然負けていませんでした。レッズ優勝と森本の出現というのは、今年のAmazingなニュースですね。

**中小路徹**：横浜 F・マリノスのステージ3連覇でしょうか。特に1stステージの一戦一戦の戦い方。終盤追いつき、逆転する。相手チームのサポーターからすればおもしろくないこと甚だしいと思うんですけども、やっぱり爽快なんですね。過密日程で、けが人も多くて厳しい状況だったのですが、1stステージでは、もう戦術を超えたような部分で力強さを見せてくれました。マリノスは、チーム内の競争が激しくて、みんなが危機感を持っている。それが一気にまとまって1stステージの優勝につながった気がします。

**司会**：レッズは、地元で愛されるクラブという点では、地域密着の見本では？

**中居**：レッズの地域密着の成功というのは、クラブの努力が大きい部分がありますね。

**福永**：ブッフバルト監督と闘莉王(田中マルクス闘莉王)が浦和のムードを変えたことが優勝

の要因では。監督のきめ細かな気配りによってチームの雰囲気良くなったと思うし、闘莉王は闘志を表に出す雰囲気をつくった。

**平澤**：地域密着でいえば、レッズに加えてアルビレックス新潟ですね。

**福永**：観客動員数でレッズを抜いちゃったわけですからね。

**平澤**：アルビレックス新潟は、近い将来は本当にビッグクラブというか、優勝争いに絡むクラブ

中居 英一(共同通信 運動部)  
中小路 徹(朝日新聞 スポーツ部)  
福永 稔彦(スポーツニッポン スポーツ部)  
平澤 大輔(週刊サッカーマガジン 編集長)

になるのではないかしらと思うし、なってほしいという気持ちもありますね。

## ● レベル高いJ2

**司会**：2004年のJ2はいかがでしたか？

**平澤**：川崎フロンターレはやはり強かったですね。前年、勝点1で昇格を逃したという苦い気持ちがクラブをひとつにして、“たった1”とい



中居 英一  
(共同通信 運動部)

うことの悔しさみたいなものをずっと持ち続けていたんじゃないでしょうか。

**中居**：J2の戦術レベルは、年々上がってきていると思います。今年の天皇杯を見ても、どのチームもJ1チームと互角の試合運びができる力はあるのでは、と多くの記者が言ってましたね。

**福永**：J2には、J1とはちがった楽しみ方、見方



© J.LEAGUE PHOTOS



© J.LEAGUE PHOTOS

みたいなのがありますね。

**中小路:**僕が見に行った水戸ホーリーホックの試合でホームタウンの町長があいさつするんですよ。それがすごくおもしろいんですね。例えば、川崎戦では「今日は川崎からはるばるいらっしゃった方には申し訳ないけれども、勝たしてもらいます」とか。J1にはない魅力で、続けてほしいなと思います。

**司会:**来季から2クラブの新規入会が決定しました。

**中小路:**徳島ヴォルティスに関しては、日本で一番野球王国といわれるところで、サッカーの内容はもちろん、観客動員数などどんなものを見せてくれるのかなという期待があります。

**福永:**ザスパ草津は、加入が決まった時、地元でお湯かけのセレモニーをやって盛り上げたり、何か新しいことをやっていこうという姿勢が見え、楽しみです。何かやってくれるんじゃないかと期待しています。



平澤 大輔  
(週刊サッカーマガジン 編集長)

**司会:**今年、Jリーグは野球と比較されることが多かったのですが。

**福永:**Jリーグはいつもクラブの規模に合わせた、身の丈にあった経営というのが前提なので、プロ野球とはちょっと比較できないという気がしますけどね。

**中居:**(サッカーは)年俸に合ったいろんなサッカーをできる環境があるという、それがすごくいいことだと思います。上はJ1のトップクラブからJ2まで、年俸にこだわらないのであればサッカーを続けられる環境ができていると思う。

**福永:**アマチュアの監督とか指導者にJの出身者がいたり、JFLのチームにJの出身者がいるじゃないですか。それは野球ではあり得ないことだから、すごくいいことです。

## ● ホームゲームで勝つこと

**司会:**1シーズン制になり、18クラブになる2005年J1リーグに期待する点をお聞かせ下さい。

**中小路:**野球が激しく揺れ動いたのに比べてJは非常に順調だと言われていましたが、果たして本当に順調なのかなということも考えなければならないと思います。観客数は、たしかに

去年より1試合平均1,600人ぐらい増えていますが、実際は去年より観客数を落としているチームが、J1で7チームあるんですよ。これまで2ステージで2回盛り上がっていたところがなくなるわけで、より一試合一試合のAmazingをどれだけ見せることができるか考える必要があるのではと思います。

**福永:**優勝にも絡まないし、降格にも絡まないチームがすごく多くなるわけですね。そういうチームが常に見に来てくれたファンに対して、いい試合を見せようという気持ちでやらないといけないと思います。また日本人のスターがどんどん出てきてほしいなと思います。

**平澤:**来季J1は久しぶりの1シーズン制なので チームづくりが難しいのではないかと思います。しかし、チームづくりの波が落ち込むと観客動員にも当然影響するでしょう。各クラブには、時間がかかるかもしれないが、徐々に曲線が上がっていくようなチーム作り、クラブ作りを期待したいですね。

**中居:**やっぱりホームゲームでは必ず勝つこと。ホームゲームは、多くの地元の人がホームチーム応援しに来ているわけだから、その人たちの前では必ず勝つこと。難しいことですけど、それをしっかりがんばってもらえば、新しいシーズンの盛り上がりにつながると思います。

**平澤:**最寄り駅からスタジアムまでをより楽しくしてくれたらうれしいですね。僕は意外と駅からスタジアムまで歩いたりするのが好きなんです。スタジアムまで歩いている間にワクワクするような仕掛けがあれば素敵ですね。

**中居:**その期待を裏切らないためにも、ホームでは勝たないといけません。

**司会:**ホームタウンの盛り上がり、百年構想の実現ですね。

**平澤:**百年構想といえば、Mr.ピッチは、うち



© J.LEAGUE PHOTOS

の編集部には浸透しています。先日会社に来ていただいたんで(笑)。

**福永:**芝のグラウンドまがいなく増えていそうですね。小学校に芝ができた子供たちの表情の違いは感じます。うらやましい。

**平澤:**自分の学校が芝生だったら、俺もってサッカーうまくなったのにとと思うんですよ(笑)。



福永 稔彦  
(スポーツニッポン スポーツ部)

**福永:**新潟で、お年寄りがユニフォームのレプリカを着ているのを見ると、クラブが地元浸透しているのを感じます。

**平澤:**ホームタウン活動はクラブ間で共有していきたいですね。

**司会:**Jリーグ事務局でもクラブの魅力をより広く伝えていく手法を検討していきたいと思っています。本日はどうもありがとうございました。



© J.LEAGUE PHOTOS

## 2004Jリーグ チェアマン総括

今年は、国際試合の増加等で厳しいスケジュールの中、各クラブが最後まで白熱した戦いを見せてくれました。リーグ戦、ヤマザキナビスコカップともに初優勝のクラブが誕生したことで、新しいリーグの歴史が生まれ、シーズンを通して日本全国でJリーグが盛り上がったことをうれしく思います。

公式戦の観客動員数は、Jリーグ開幕以来初めて合計700万人を突破しました。大勢のファン、サポーターがスタジアムに来場し、熱い声援を送って下さったことに感謝申し上げます。

一方で、10月に発生した新潟県中越地震に加え、相次ぐ台風による影響で、試合の延期や開催地の変更などやむをえない事態が続き、多くのサッカーファンにご心配をおかけしました。しかし、アルビレックス新潟をはじめとする各クラブのいち早い復興支援活動、全国のファン、サポーターからの義援金募金に感謝申し上げるとともに、被災地の皆さんの一日も早い復興とご健康を心からお祈り申し上げます。また、復興支援活動を通じて、クラブ間の競争を超えたJリーグのきずなが生まれたことも大変うれしく思います。

### J1

今年を象徴するのは、2年連続Jリーグ制覇という偉業を成し遂げた横浜F・マリノス、そして惜しくもサントリーチャンピオンシップで敗れた浦和レッズの2チームだろう。サントリーチャンピオンシップでは、歴史に残る見ごたえのある試合が展開され、今季勢いに乗った浦和の攻撃を、巧みな戦術と選手起用で制した岡田武史監督の素晴らしい監督手腕に賞賛を贈りたい。年間優勝により、来年のAFCアジアチャンピオンズリーグ、日本、韓国、中国3カ国のA3チャンピオンズカップへの出場権を得た横浜FMには、ぜひJリーグを代表するクラブとして、アジア制覇を狙ってほしい。

1stステージでは昨年から3ステージ連続優勝を果たした横浜FMに続いて、ジュビロ磐田、浦和、ガンバ大阪が後を追いついて、かつての強豪チームを制して複数のチームが実力をつけて台頭してきた。2ndステージでは、浦和が怒涛の攻撃力でリーグ初優勝を決めた。浦和の選手出身でもあるブッフバルト監督がチームを優勝に導いたことをうれしく思います。特筆すべきは、浦和を長く支え続け、6万人のスタジアムを満員にする多くのサポーターの力だろう。Jリーグの掲げる地域密着を象徴する浦和のクラブ作りが、今年の強さを生み出したものと思う。

また、1stステージに続き、上位争いに加わったジェフユナイテッド市原、G大阪も強豪チームを脅



かす存在として素晴らしい戦いを見せてくれたが、両チームとも、来年は最後の勝負強さを身につけて初の優勝を勝ち取ってほしい。特に、関西地域にチャンピオンチームが生まれることを期待したい。

ヤマザキナビスコカップで初優勝を飾ったFC東京もその栄光をたたえたい。新しいチャンピオンが誕生することはいよいよ大変素晴らしいことであり、大勢のサポーターとともに、今年勢いのあった浦和を制して勝者に輝いたことを高く評価したい。

また、新潟県中越地震の影響により、試合延期や会場変更を余儀なくされたアルビレックス新潟は、最後まで地元ファン、サポーターや被災者の方々を元気づける、勇気あふれるプレーを見せてくれた。今後も、シーズンオフの支援活動などの継続により、引き続き県民の皆様に夢を与えるクラブとしてあり続けることを願っています。

### J2/J1・J2入れ替え戦

J2では、早々と10月に昇格内定を決めた川崎フロンターレのチーム一丸となった戦いだろう。J2の長い戦いの中で、チームをまとめ抜いた関塚隆監督の手腕を評価するとともに、J1クラブをも凌駕(りょうが)する勢いの攻撃サッカーを来年も期待したい。2位争いは複数のチームによる混戦となり、最後まで目を離せない展開となった。これはJ2のレベルが年々アップしていることを意味し、2位を獲得した大宮アルディージャ、最終節までもつれこんで3位を争ったアビスパ福岡、モンテディオ山形の両チームの戦いに敬意を表したい。

経営問題では、サガン鳥栖が継続的に、安定したクラブ経営に向けた課題を抱えてきたが、近い将来に地元自治体やサポーターに安心して応援していただける経営基盤を再構築できるよう、強く願っています。

一方、入れ替え戦では、柏レイソルがJ1の意地を見せて残留を決めたが、これに甘んじることなく将来につながるチーム作りの再建に期待したい。惜しくも昇格を逃した福岡は、この悔しさを1年間

忘れることなく来年の昇格を目指して戦い抜いてほしい。

### 観客動員の増加

今年は、代表の強化日程などにより、過密日程が続いたが、全公式試合の観客動員数合計が740万5048人と、Jリーグが始まって以来初の700万人を超える観客動員数を達成した。

リーグ戦ではJ1が合計455万1695人。1試合平均は1万8965人と昨年よりも約1600人の増加、J2は合計190万4172人で1試合平均7213人、昨年比約680人の減少となった。また、横浜FMがサントリーチャンピオンシップでJリーグ最多の6万4899人の入場者数を記録した。

この要因としては、2ndステージで快進撃を見せた浦和が順調に動員数を伸ばしたほか、G大阪、ヴィッセル神戸、今年J1に昇格した新潟などが動員数を伸ばしたことがあげられる。特に、関西クラブの動員数がさらに伸びることを期待し、今後の関西地域のJリーグ活性化につなげてほしい。また、J2は昨年最多動員を記録した新潟がJ1に昇格したことで全体の平均動員数は減少したが、12クラブ中8クラブが動員数を伸ばしており、着実に各クラブの活動が地域に浸透してきたといえるだろう。

### 審判/各種活動

スペシャルレフェリー制度が3年目を迎えた。判定基準の統一など継続的な課題もあるが、リーグやメディアからの情報発信も徐々に進み、審判への理解が促進され、そのレベルも少しずつ向上しているといえる。若手審判員の養成も進んでおり、Jリーグを担う今後の活躍が期待される。

Jリーグアカデミー、キャリアサポートセンター等、Jリーグを取り巻く様々な環境に対応すべく、選手のカリキュラムや育成・普及事業の整備も順調に進んでいるといえる。

### 2005年に向けて

来年は、徳島、草津の新しい地域にJクラブが誕生し、Jリーグは過去最多の30クラブになる。チーム数増加に加え、アジアでの国際試合開催や2006FIFAワールドカップドイツアジア地区最終予選により、今年に続き来年も日程調整が大変厳しく、過密日程になることが想定される。1シーズン制の魅力が少しでも早く定着するように、各クラブが独自のカラーを打ち出すことで、新たなJリーグの魅力が全国に広がり、シーズンを通して各地で白熱したエキサイティングな戦いが展開されることを願っています。

写真提供：©J.LEAGUE PHOTOS



「Jリーグニュース」は100%再生紙を使用しています。